



'89  
**design  
year**

’89デザインイヤーフォーラム総会次第

---

日時：平成2年4月25日（水）

14：00～15：15

場所：東京全日空ホテル 鳳の間

1. 開 会

2. 挨拶 ’89デザインイヤーフォーラム会長 石川六郎

3. 挨拶 通商産業大臣 武藤嘉文

4. 議 題

(1) 平成元年度事業報告

(2) 平成元年度収支決算報告

(3) ’89デザインイヤー運動の総括  
(1990年代におけるデザイン活動への提言)

(4) 「デザインの日」について

(5) そ の 他

資 料：

- ① 平成元年度事業報告書
- ② 平成元年度収支決算報告書
- ③ 「90年代におけるデザイン活動への提言」
- ④ 「デザインの日」の創設について（省議決定文）
- ⑤ 「デザインの日」マーク、ロゴ

議案第1号

平成元年度

事業報告書(案)

(自平成元年4月 1日・至平成2年3月31日)

89デザインイヤーフォーラム

# 平成元年度事業報告書

(自平成元年 4月 1日～至平成 2年 3月31日)

産業、経済の発展を背景に心の充足と豊かな国民生活が希求される中において、平成元年度を'89デザインイヤーとして展開された'89デザインイヤー運動は「デザイン」を通じて①国民生活の質的向上、②地域の活性化、③産業の高度化、④国際社会への貢献を課題に様々な事業が全国的に展開され、参加事業は400件を越えた。

また、'89デザインイヤーフォーラムの中核事業としての「日本デザイン賞」は新たな時代に向けてのデザインの巾広い役割とその重要性を明らかにし、「ワークショップ」の実施により地域活性化のためのデザイン導入の重要性が認識された。

このように、1990年代を迎えた今日、'89デザインイヤー運動を通じてデザイン活動が新しい意義と重要な役割をもっていることが認識された。

## I . 会 議

### 1) 実 行 委 員 会

委員 長 : 井川 博 日本商工会議所専務理事

委員長代理 : 豊口 協 日本インダストリアルデザイナー協会理事長

#### ①第4回実行委員会(規約第15条による書面議決)

日 時 : 平成元年5月31日(水)

議 題 : ①昭和63年度事業報告

②昭和63年度収支決算報告

#### ②第5回実行委員会

日 時 : 平成元年11月 1日(水)

場 所 : アジアサロン(世界貿易センタービル)

議 題 : ①'89デザインイヤー運動の進捗状況について

②'89デザインイヤーフォーラム「デザイン宣言」について

③'89デザインイヤーフォーラムスケジュール

④その他



### ③第6回実行委員会

- 日 時：平成2年 2月16日（金）  
場 所：朝日スクエア（有楽町マリオン）  
議 題：①'89デザインイヤー運動の状況  
②「90年代におけるデザイン活動への提言」について  
③その他

## II. 事 業

### 1)'89デザインイヤーフォーラム直営事業

#### (1) 日本デザイン賞

快適で潤いのある生活の実現を目指した、デザインマインドあふれる事物を顕彰することによりデザインの果す役割の重要性の認識を広く一般に普及し、デザインの社会的、経済的意義を明らかにすることを目的に実施した。

#### ・実施の概要

##### ①調査委員会（委員長：泉 真也 環境デザイナー）による推薦案件の調査・確認及び審査会へのノミネート案件の選出

- |           |                |
|-----------|----------------|
| 第1回 調査委員会 | 平成元年11月 2日     |
| 第2回 調査委員会 | 平成元年11月17日、18日 |
| 第3回 調査委員会 | 平成元年12月 4日     |
| 第4回 調査委員会 | 平成元年12月28日     |

##### ②審 査 委 員 会

委 員 長：天谷直弘（財）国際経済交流財団会長  
副委員長：白根禮吉（財）電気通信科学財団理事長  
調査委員会によりノミネートされた案件について審査と、賞の決定

- 日 時：平成2年 2月16日（金）  
場 所：朝日ホール（有楽町マリオン）

##### ③結 果

推 薦 者：245名

推薦件数：443件

審査対象件数：42件

審査結果

・日本デザイン大賞 4件

イ. ファクシミリ

ロ. 沖縄自然冷房住宅「ドームチャンブル」

ハ. 「本州四国連絡橋、児島・坂出ルート」(瀬戸大橋)

ニ. 横浜市のアーバンデザイン行政

・日本デザイン賞

ソニー「ウォークマン」他11件

・奨励賞

びあ「びあ」他22件

## (2) デザインワークショップ

新たな地域づくりへ向けて、デザインが取り組むべき課題を研究することにより、新たなデザイン振興基盤を醸成することを目的に全国15地区において、地域の事業主体と共同してそれぞれの地域特性に基づいたテーマにより実施した。

実施地域

岩手県 山形県 新潟県 横浜市 山梨県 静岡県

福井県 堺市 鳥取県 福山市 山口県 高知県

北九州市 佐世保市 熊本県

## (3) 青少年デザインコンクール

豊かな発想を有する青少年の大胆な生活提案を通して、デザインの重要性と生活への関わりを具体的に認識してもらうことを目的に昭和63年度に実施した青少年デザインコンクールの結果受賞した優れた提案を具現化したモデルとパネルを作成して巡回展示した。

## ・実施概要

①. 東京芸術大学、多摩美術大学、筑波大学に委託して、優れた提案3種類についてモデルを作成した。

- ②. モデルは、日本産業デザイン振興会が実施した21地区における  
地域巡回展において展示した。

平成元年

10月 高岡市 京都市 関市 福山市 防府市  
11月 金沢市 今治市 鳥取市 熊本市 那覇市 佐賀市  
12月 仙台市 宇都宮市 足利市

平成2年

1月 帯広市 水戸市  
2月 札幌市 伊丹市 大分市  
3月 新潟市 松江市

(4) '89デザインイヤー記念シンポジウム

'89デザインイヤー期間中に実施された様々な運動、事業を総括し、  
'89デザインイヤー運動の意義を再確認し、1990年代における  
デザイン活動の展望と提言を行なった。

日時：平成2年 2月15日(木)・16日(金)

場所：朝日ホール(有楽町マリオン)

主催：'89デザインイヤーフォーラム

後援：通商産業省、建設省、運輸省、外務省、文化庁

内容：

\*平成2年 2月15日(金)

第1部

'89デザインイヤー運動の全体報告

「'89デザインイヤーをふりかえって」

'89デザインイヤー実行委員会委員長代理

豊口 協(東京造形大学学長)

[パネルディスカッション]

「80年代のデザインの歩みと'89デザインイヤーの  
目的。意義の再確認」

[コーディネイター]

佐野 寛(東京学芸大学教授)

[パネラー]

河北秀也 (㈱日本ベリエールアートセンター代表取締役)

島田一郎 (㈱フォルマ代表取締役)

長澤忠徳 (長澤忠徳事務所代表取締役)

小林健二 (通商産業省検査デザイン行政室長)

第2部

'89デザインイヤー参加事業紹介

「'89デザインイヤー参加事業について」

西澤 健 (㈱GK設計取締役副社長)

[各事業主催者による発表]

世界デザイン会議 他9事業

第3部

デザインワークショップ紹介

「デザインワークショップの意義と目的」

清成忠男 (法政大学教授)

[各地域ワークショップ開催者による発表]

高 知 他5地域

[パネルディスカッション]

「'90年代の地域グランドデザインを考える」

[コーディネイター]

長澤忠徳 (長澤忠徳事務所代表取締役)

\*平成2年 2月16日(土)

第4部

[パネルディスカッション]

「'90年代の日本のグランドデザイン」

[コーディネイター]

泉 真也 (環境デザイナー)

[パネラー]

久米 豊 (日産自動車㈱代表取締役社長)

竹内 啓 (東京大学教授)

西尾武喜 (名古屋市長)

## 第5部

日本デザイン賞候補プレゼンテーションおよび審査

(別 掲)

## 第6部

日本デザイン賞発表

(別 掲)

## 第7部

’90年代におけるデザイン活動の展望と提言

長村貞一(’89デザインイヤーフォーラム副会長)

(資料別添)

## 2) 参 加 事 業

’89デザインイヤー期間中にデザインイヤー運動の趣旨に沿って、地方自治体、各種団体、企業等が主体性をもって実施、展開する事業を’89デザインイヤー参加事業として位置づけ、諸事業の相乗効果を高め、デザインに対する国民各分野の理解を促進することを目的に参加事業登録を実施した。登録参加事業総数401件

## 実 施 内 容

### ①参加事業の事業主体

地方自治体、経済団体、デザイン団体、産業団体、教育機関、企業等

### ②登録の方法

事業主体から申請された事業について、事業登録委員会が事業内容を、登録基準に基づいて検討し、登録参加事業に対し、「デザインイヤー参加事業登録証」を発行した。

### ③参加事業登録委員会

- ・事業登録委員会(委員長 : 西澤 健 (株)G K設計取締役副社長)
- ・事業登録委員会の開催

・事業登録委員会の開催

回数	開催日	登録件数	累計登録数
第1回～第7回	昭和63年度		250
第8回委員会	平成元年4月28日	30	280
第9回委員会	平成元年6月8日	21	301
臨時委員会	平成元年6月19日	1	302
第10回委員会	平成元年7月18日	26	328
臨時委員会	平成元年8月19日	14	342
臨時委員会	平成元年9月26日	14	356
臨時委員会	平成元年10月27日	7	363
第11回委員会	平成元年12月27日	9	372
臨時委員会	平成2年2月28日	23	395
臨時委員会	平成元年3月30日	6	401

・参加事業分類

①展示会、見本市等	129件
②シンポジウム、セミナー等	95件
③コンペティション、顕彰	88件
④産業振興	29件
⑤環境整備	24件
⑥その他（総合、複合）	36件
計	401件

(3) デザイン開発指導連絡協議会におけるデザインイヤー運動情報交流

(通商産業局主催)

札幌（北海道）	平成元年10月24日
仙台（東北）	平成元年10月26日
名古屋（中部）	平成元年11月7日
広島（中国・四国）	平成元年11月9日
東京（関東・甲信越）	平成元年11月10日

福岡（九州・沖縄） 平成元年11月15日

大阪（関西） 平成元年11月17日

(4) 広報事業

’89デザインイヤー運動の周知を図り、デザインイヤーに対する理解とデザインの認識昂揚のためポスターの作成、配布、デザインイヤー告知広告、プレスリリースの発行等を行った。

・実施内容

①デザインイヤー第2次イメージポスター

(デザイン 田中一光)

デザインイヤー第3次イメージポスター

(デザイン 榊フォルマ)

②第2次デザインイヤー告知広告

平成元年4月1日 朝日新聞全国版15段

③デザインイヤー記念ポスター展

平成元年4月 東京、名古屋、大阪、金沢

④プレスリリースの発行

No. 1～6 (昭和63年度)

No. 7 平成元年4月10日

No. 8 平成元年5月15日

No. 9 平成元年6月1日

No. 10 平成元年7月15日

No. 11 平成元年8月10日

No. 12 平成元年9月1日

No. 13 平成元年10月2日

No. 14 平成元年11月2日

No. 15 平成元年12月1日

No. 16 平成2年3月15日

No. 17 平成2年3月31日

⑤山手線一周デザインパンチングラリー

平成元年4月15日・16日

参加者 約6,000名

⑥専門見本市での広報ブース設置

東京国際見本市、ビジネスショー

玩具ショー、ギフトショー、DIYショー、等

⑦デザインイヤー記事掲載

イ、デザインワークショップ特集記事

週間読売（5回）

平成元年12月10日 .17日 .24日 .31日

平成 2年 1月 7日

ロ、デザインイヤー記事

につけいでざいん 平成 2年 4月号

その他、新聞、TV、ラジオ、専門誌 等多数

⑧第3次デザインイヤー告知広告

平成 2年 3月31日

日経新聞全国版15段

⑨その他、ワークショップ開催地域、参加事業開催地域、

巡回展開催地域での広報

3) 「'90年代におけるデザイン活動への提言」

「デザイン宣言」案起草小委員会において検討の結果「'90年代におけるデザイン活動への提言」をまとめ、第6回実行委員会において審議、採択の上、平成 2年 2月16日の記念シンポジウム（前掲）において発表した。

・「デザイン宣言」案、起草小委員会

清成忠男委員、豊口 協委員、平野拓夫委員

「'90年代におけるデザイン活動への提言」（別添）

4) 「デザインの日」創設について

第5回実行委員会（平成元年11月 1日）における実行委員の提案を受け「デザインの日」創設について検討の結果、平成 2年 1月22日通商産業省省議決定をもって、毎年10月 1日を「デザインの日」と制定（別添省議決定文参照）



別添資料

- 1) '89デザインイヤーフォーラム・メンバー
- 2) '89デザインイヤーフォーラム・実行委員会
- 3) 「日本デザイン賞」審査委員会
- 4) 「日本デザイン賞」調査委員会
- 5) 「デザイン宣言」案起草小委員会
- 6) 「日本デザイン賞」授賞リスト
- 7) ワークショップ開催地域・テーマ一覧
- 8) 参加事業一覧

議案第2号

平成元年度

収支決算書(案)

(自平成元年4月 1日・至平成2年3月31日)

89デザインイヤーフォーラム

## 平成元年度デザインイヤー収支決算（案）

（自：平成元年4月1日～至：平成2年3月31日）

### 1. 収入の部

単 位 : 円

項 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
1. 機械工業振興資金補助金	167,990,000	158,546,250	9,443,750	
2. デザインイヤー協力金	90,000,000	138,000,000	△ 48,000,000	
3. 自 己 資 金	6,148,000	4,473,921	1,674,079	
4. 前 年 度 繰 越 金	20,000,000	13,203,281	6,796,719	
5. 雑 収 入	0	133,760	△ 133,760	
合 計	284,138,000	314,357,212	△ 30,219,212	

### 2. 支出の部

単 位 : 円

項 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
1. '89デザインイヤーフォーラム 開催費	9,000,000	0	9,000,000	
2. 広 報 事 業 費	121,380,000	140,886,512	△ 19,506,512	
(1) 一 般 広 報 費	66,380,000	89,057,942	△ 22,677,942	
(2) 告 知 広 告 費	55,000,000	51,828,570	3,171,430	
3. フォーラム事業費	149,758,000	152,268,824	△ 2,510,824	
(1) 国民デザイン賞開催費	26,000,000	32,438,531	△ 6,438,531	
(2) 地域ワークショップ開催費	30,090,000	24,217,099	5,872,901	
(3) ポスターコンクール開催費	24,590,000	17,937,682	6,652,318	
(4) 記念シンポジウム開催費	11,930,000	13,789,701	△ 1,859,701	
(5) 報告書編集準備費	4,649,000	4,788,224	△ 139,224	
(6) フォーラム事務局運営費	52,499,000	59,097,587	△ 6,598,587	
4. 予 備 費	4,000,000	98,800	3,901,200	
合 計	284,138,000	293,254,136	△ 9,116,136	

### 3. 収支比較表

単 位 : 円

収入決算額	支出決算額	差引残高
314,357,212	293,254,136	21,103,076



’89デザインイヤーフォーラム

’90年代におけるデザイン活動への提言

## I. ’89デザインイヤーの意義

’89デザインイヤーは、「デザイン」を通じて新しい時代における生活と産業と文化のあり方を国民各分野で問い直そうとする運動であった。

そして、この’89デザインイヤー運動では「デザイン」を通じて①国民生活の質的向上、②地域の活性化、③産業の高度化、④国際社会への貢献を目標に様々な運動が全国的に展開された。全国各地で展開されたデザインイヤー参加事業は400件を超え、今やデザイン活動が新しい意義と重要な役割をもっていることが確認された。

また、国際的に見ても、世界デザイン博覧会、国際デザイン展をはじめ国際的なデザイン会議、コンペティションなどの開催によりデザインイヤー運動は、世界の国々から大きな関心が寄せられた。

さらに、’89デザインイヤーフォーラムでは中核事業として「日本デザイン賞」を創設し、製品から空間、環境までの広い範囲にわたり優れたデザインを顕彰することにより新たな時代に向けてデザインが果たす幅広い役割と、その重要性を明らかにすることができた。

このように、全国的に国民各分野の人々がデザイン活動に参加したことは、デザイン史上初めてのことであり、’89デザインイヤー運動を通じて生活の質的向上、個性ある地域づくり、産業の創造的知識集約化、創造活動を通じての国際社会への貢献といった課題に対応するために「デザイン」が極めて重要であることが確認された。

同時に、「デザイン」が言語の相違をこえたグローバルなコミュニケーションの役割をもっていることが明らかになった。

## II. '90年代のデザインの展望

日本のデザイン振興の歴史は、今'90年代に入り大きく変わろうとしている。

それは啓発の時代から主体的実践の時代への転換である。

今、我々は地球環境問題等の様々な全人類的な問題に直面し、これらの問題は、社会、経済、文化のいろいろの分野に係わっている。このような状況の中で我が国が新たな価値を創造しつつ生活文化立国の道を歩むためには、知的創造活動としてのデザイン活動をより一層展開させることが求められている。

このように、社会構造、産業構造の変容の中で生活、産業、地域社会、国際社会を結ぶ絆としてのデザインが大きな役割を果たしていく1990年代には、事物、事象を横断的に捉えつつ、需要サイドの視点に立った客観的なデザイン評価が重要である。

また、デザインの係わる領域がその対象範囲においても表現媒体においても拡大している中であって、デザインにはジャンルを超えた新しい価値創造のための総合的なプロデュース機能が強く求められるようになるだろう。

更に、国際社会における日本の位置づけは'90年代には大きく変わろうとしており、グローバルな視点にたって新しい時代における生活文化の創造にどのように貢献出来るかが日本のデザインに期待される大きな役割となろう。

## III. '90年代のデザイン活動への提言

### (1) デザインの高度化の推進

デザインの係わる領域が製品だけでなく空間、景観、環境にも拡がり、企業活動のグローバルゼーションの中でデザインの果たす役割が増大してきている。

このような状況を踏まえ、世界の経済社会の発展のために、人とモノとのインターフェイス、生活と産業のインターフェイスであるデザインの高度化をより一層推進する必要がある。

## (2) 国際デザイン交流の推進

デザインは今日、言語の相違を超えたコミュニケーションツールとして、生活文化面の国際交流に大きな役割を果たすことが期待されている。

この期待に応えるためには、デザイン分野での人材交流、情報交流を活発化させるとともに、世界の各国の歴史と文化を尊重しつつ、デザインをキーワードとする国際文化交流を推進する必要がある。

## (3) 地域の活性化のためのデザイン活動の推進

デザイン活動が地域の活性化の有力な手段であることは、デザインイヤー運動を通じて確認された。

’90年代において地域がアイデンティティを確立し、個性あふれる豊かな地域づくりを進めていくためには、創造的支援拠点の整備、地域活性化のためのデザインの活用等を推進する必要がある。

## (4) 『デザインの日』を通じた新たな価値創造の呼びかけ

’90年代においては、デザイン活動は、単なる「色彩、形状」という側面だけでなく、生活、産業、文化の幅広い分野で、新しい価値を生み出す創造的活動としての大きな役割を求められている。

このため、21世紀を展望しつつ、1990年代を通じてデザインの重要性和意義を国民1人1人が考える機会として『デザインの日』を位置づけ、世界の人々とともに創造性あふれるデザイン活動を実施することが望まれる。

# 議案第4号

省議決定文

「デザインの日」の創設について

平成2年1月22日

通商産業省

1. 通商産業省としては、昭和63年3月31日の省議決定に基づき、「'89デザインイヤー」運動を強力に支援してきたところである。
2. 我が国が、快適で潤いのある国民生活を実現する上で、また、産業活動の高度化を図る上で、更には、文化の発展を図る上で、「デザイン」の視点はますます重要なものとなっていることが、「デザインイヤー」の活動を通じて確認された。
3. このような観点から、通商産業省としては、デザイン奨励審議会が設置され、国民の幅広い見識を踏まえた本格的なデザイン政策が開始された昭和34年10月1日を記念し、毎年10月1日を「デザインの日」と定め、「デザイン」の重要性を考える機会を設けることにより、各分野における国民のデザイン活動を一層強力に支援していくものとする。

# 「デザインの日」 マーク・ロゴ

デザイン：亀倉雄策 氏



design  
day

デザインの日